

2018年10月29日

英会話道場イングリッシュヒルズ  
文書教材

## 二重表明法の美意識が齎す「真実の真実性」

**“No placebo is given to you. No non sequitur is given to you, either.”**

生井利幸

講師の生井利幸は、レッスンの最終章として、必ず、**closing statement** を講じます。生井利幸が発する **closing statement** は、単なる「締め」「結び」の言葉ではなく、そこには「学習者にとって極めて重要なメッセージ」が挿入されています。

生井利幸の **closing statement** は、レッスンのたびに聴き流しをしていると、その内容・重要メッセージについて、何年聴き続けていても認識・理解に到達することはありません。

エレガント英語を学習・習得する上で必要十分な認識・理解に到達するには、言うまでもなく、レッスン終了後、ディクテーションを行い、日本語に翻訳し、その後、その翻訳内容について、図や絵などを書きながら自分なりの方法でその講義内容についてしっかりと整理することが肝要です。

本稿では、**closing statement** に登場する以下の2つの英語表現について講じます。

**1 “No placebo is given to you.”**

**2 “No non sequitur is given to you, either.”**

“No placebo is given to you.”とは、「わたくしは、真実のみを講義します」という意味です。placebo はラテン語で、伝統的に、バティカン、即ち、ローマ・カトリック教で使われる語であり、「私が喜ばせる」という意味を成します。

医学・薬学においては、“placebo effect”（プラシーボ効果）という概念があります。これは、「患者に偽薬を投与し、症状を緩和させる」概念を指すものです。医療として注目になることは、実際に、偽薬の投与で、患者自身においてポジティブな心理的効果が生じ、「望ましい治療の効果」が出ることもあるという事実です。

対照剤としての placebo には、薬としての有効成分はありません。病気の症状を緩和させるための有効成分がないにもかかわらず、患者が、「この薬は良く効きますよ！」と言われて“前向き思考”で服用した後、実際に病気の症状が緩和され、さらには、病気が治ることがあります。昔から「病は気から」と言われていますが、このような効果は、(1)「心理的要因」と(2)「病気の症状」の因果関係を示すものであると明言できます。

生井利幸が講じる“No placebo is given to you.”の概念の中には、「偽薬の投与もしません。嘘偽りの言葉も言いません。わたくしは真実のみを講義します」という意味合いが内在しています。この表現法は、いわゆる「教養英語」。普通の生活をしている英米人においては、日常生活にてこの表現法を用いることはないでしょう。

一方、“No non sequitur is given to you.”とは、「講義の流れを鑑みることなく、合理性が欠如した論法で講じることはありません」という意味です。

“non sequitur”はラテン語で、「妥当性のない論理・論法」を意味する語です。この語も「教養英語」で用いる語であり、一部の学者・教養人等によって用いられます。

真実を述べるならば、最高峰ステージに到達した学問の世界において、「教養英語」を喋る学者・教養人はいても、その教養英語を、「品格のあるエレガントな英語」として使いこなす学者・教養人は皆無に等しいでしょう。

無論、崇高な学問の世界について、頗る難解に講じ、表現する学者・教養人は存在します。しかし、その頗る難解な学問の世界を「美しく表現する・伝える」ことは、受講生の皆さんが想像する以上に「極めて難しい業（わざ）」です。

わたくしは、常に、「英知は美しいもの」と講じています。英知は、確かに美しいです。世界中の大学・大学院等において、教授者は、「英知そのもの」は教えます。しかし、その英知について、「美しい方法で教える・伝える」という“超越的”教授法を備えている教授者は皆無に等しいでしょう。

わたくしは、closing statement を講じる際、“No placebo is given to you. No non sequitur is given to you, either.”という如く、2回続けて、異なる表現を用いて、学習者に対して重要事項を述べています。

これはいわゆる“真実の真実性”を明示する目的で用いる「二重表明法の美意識」。類似する意味・ニュアンスを持つ表現を2回続けて述べるこの美意識は、(1)「rational intonation (理性的イントネーション)」、(2)「間の概念」、(3)「話すスピードの調整・微調整」等の美意識を備えていることを大前提として、エレガント英語を実現する上で極めて大きな役割を担います。